

〈研究発表1〉

自ら動き「夢をつかむ」修学旅行の創造

～生徒の主体性を伸ばし自助共助やキャリア教育と関連させた修学旅行の在り方～

発表校：下都賀郡野木町立野木第二中学校 校長 藤田 晴彦
教諭 岩本 勝典

1 本校について

(1) 概要

野木町は、栃木県の最南端に位置し東京から約60キロメートル、茨城県や埼玉県と隣接する人口約25000人の町である。旧国道4号線やJR宇都宮線沿いに広がる町で野木駅周辺の住宅地から首都圏への通勤通学者が多い。また、町の周辺部には、稲作や畑作の農作地、工業団地が点在している。

観光や地域の魅力にラムサール条約に登録された渡良瀬遊水地があり、動植物が棲む豊かな環境が広がり四季折々の自然に触れ合うことができる。

明治23年につくられた野木町煉瓦窯は、国の重要文化財に指定されている。日本に現存する4基のホフマン式窯で唯一完全な形を保っている貴重な産業遺産である。本格的な乗馬施設や交流センターを備え、町のランドマークとして各種イベントを行っている。

夏になると町内いたる所で町の花であるひまわりが咲き、本校の南側では、夏の風物詩でもある「ひまわりフェスティバル」が開かれ約30万本のひまわりが咲き誇り多くの観光客が訪れる。冬には、野木神社で子どもたちや若者が、竹竿の先に火のついた提灯をつけ、かけ声とともにぶつけ合う奇祭が行われている。

町には、小学校5校中学校2校が設置され、本校は、生徒数311名、教職員39名、普通学級10、特別支援学級4の中規模校で今年度創立30周年記念を迎える。



(2) 学校教育目標

学校教育目標は、「夢をつかむ」で生徒に理解しやすくキャリア教育との関連を図れるものである。目指す生徒像は、①心あたたく思いやりのある生徒、②自ら学び創造力のある生徒、③己を鍛える生徒を掲げている。全ての教育活動を通してこの目標や生徒像の具現化に努め生徒一人一人が、学習をはじめ学校行事や部活動などを通して充実した学校生活を実現することを目指している。



(3) 生徒の様子

心をこめた元気なあいさつができ素直で集中力の高い生徒が多く、学習面では、授業を積極的に取り組み小集団学習の活用やノーチャイム日課、立腰教育の実践が行われている。全国学力学習状況調査においては、全国や県平均点を越える教科、項目が多い。

生徒会スローガン「自ら動く」を大切にし、主体的な活動が上級生から下級生に受け継がれ生徒会行事や学校行事を活発に行い所属感や達成感を高めている。校外においても、地域の方々へのあいさつやおもいやりの交通マナー、ボランティア活動などが高く評価されている。

部活動への参加は9割程度でクラブチームや音楽、芸能活動をしている者もいる。特別支援教育の充実や不登校対応、家庭支援など個に応じた指導が課題である。

2 主題について

(1) 主題

自ら動き「夢をつかむ」修学旅行の創造

～生徒の主体性を伸ばし自助共助やキャリア教育と関連させた修学旅行の在り方～

(2) 主題設定の理由

本校が従来行ってきた京都奈良の修学旅行は、保護者や生徒に受け入れられ、関東地区公立中学校修学旅行委員会等の協力を得ながら安定的に進められてきた。今回の発表は、新学習指導要領との関連を図り計画や活動内容を考えること、修学旅行をめぐる新しい課題や安心安全を確保すること、本校が従来行ってきた活動を基本にすること、校内の情報環境や人材を活用することを研究の中心とした。

主題は、生徒会のスローガンである「自ら動く」と学校教育目標「夢をつかむ」を合わせている。生徒は、様々な学校行事において「実行委員会」を組織して運営してきた。今回の修学旅行においても、修学旅行のスローガン作りから持ち物やルール決め、班別研修の決定などを主体的に取り組みさせた。そして、中学校3年間の集大成の行事であることや職業への興味や価値、進路の選択を意識させることで「夢をつかむ」ことになると考え主題を設定した。

副主題は、校長が生徒のミッションとして、自助共助を重点として伝えていたことや学年主任がキャリア教育に関することを学年経営の柱として指導してきたので、学校経営や学年経営において大切にしてきたことを修学旅行と関連させ副主題を設定した。

3 ミッション

(1) 今年度の重点

校長として学校経営を進めるなかで、生徒たちにどのようなことを伝え継続的に高めていくかを悩むことがあった。そこで、学校の実態や年度ごとの課題、育成したい資質能力を考えて、年度の重点を「ミッション」として示すこととした。式辞や講話、さまざまな機会にミッションに関係することを話している。また、学校だよりで生徒の取組を紹介している。

平成30年度のミッション

- ・自助共助ができる
- ・探求心をもつ
- ・思いやりを大切にする



(法隆寺)

(2) 自助共助の育成について

「自助共助ができる」ミッションとして、自助は、自分の安全や命は自分で守ることを基本とし、災害時に自分の安全を確保し危機を回避すること、日常の自転車利用でも交通ルールを守ること、ヘルメットを着用することに関連させている。

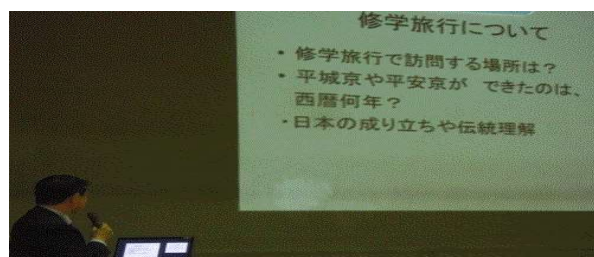
共助は、災害時を始め共に助け合う関係作りと実践である。また、学級だけでなく部活動の先輩後輩、地域での小学生や住民との共助関係を大切にしている。この関係性を理解させ維持することでいじめ予防にも役立っている。

4 栃木県教育委員会 学校安全課の設置

栃木県教育委員会においては、平成30年度より学校安全及び危機管理に係る組織体制を強化するために学校安全課が設置された。学校教育活動全般に関する安全管理を徹底するためのものである。学校行事が適切に計画・実施され安全確保が求められているので、修学旅行においても安全面で想定されることを確認し、事前指導の内容を工夫し様々な配慮をした。

5 令和元年度の修学旅行

令和元年になり全校講話の中で元号の意味や新しい時代への期待を伝えた。その中で、3年生に対しては京都や奈良方面に行くことから、平城京や平安京などの歴史や文化に興味関心をもたせ修学旅行の意義や新時代の到来を考えさせた。



6 キャリア教育について

(1) 新学習指導要領におけるキャリア教育の位置づけ

「児童生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要しつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること」のように新学習指導要領の総則に初めて「キャリア教育」という文言が直接使われている。

特別活動を中核にしキャリア教育の骨子を示し、教科、特別な教科道徳、総合的な学習の時間、教育相談などを含め推進するには、学年主任の強い関与が望まれる。

(2) 本校の課題

本校の教育目標は「夢をつかむ」であり、キャリア教育と関連させやすい。今年度、進路指導主事が中心になり新学習指導要領との関連や諸計画、委員会の見直しを図った。また、学校評価において低い項目もあることからキャリア教育通信を発行して、全学年の取組や生徒の進路意識を紹介することにした。

進路事務に関しては、昨年度の実績から1都3県の公立私立高校等への準備を進めているが、様々な入試制度や試験があり教員の負担は大きい。

本校では、1年時に職場見学、2年時に職場体験を実施し、勤労観や職業観を中心に生きることに対する価値観を育むことを目的にしているが、職場体験の職種が限定されていることや「働くこと」の現実や必要な資質・能力の育成につなげていく指導が不足していると考えられる。

7 危機についての知見（講話等により）

(1) 「地震の性質を知って災害に備える」名古屋大学大学院環境学研究科山岡耕春教授 平成30年7月24日 全国修学旅行研究大会基調講演より

修学旅行に係る自然災害の問題として、地震・火山・風水害など予期せざる事態は、国内外で発生する。「兆し」があった場合に決行するかどうかの判断や団体行動およびグループ行動中に発生する突発的な自然災害への対応を指摘している。

日本列島は変動帯にあり地震を心配していたらどこにも行けないのではないか。大規模な地震ほどまれであり被害の発生する揺れは、震度6から7。国内で強い地震の揺れを観測する頻度は年によって大きく異なる。

建物の耐震基準は、地震の被害を経験して改定されてきた。建物が壊れなくても家具や本棚が倒れることに注意する。地盤も大事なので、地震動予測地図などウェブで詳細な情報が得られるので活用する。

地震や火山噴火も含めて、「自然の予測は難しい」「絶対に安全はない」が、判断を他人任せにしないことが大切である。

(2) 「学校における危機管理」戸田恵蔵 弁護士 令和元年5月17日 栃木県校長研修より

学校は、未熟な多数の児童生徒の生命身体の安全を引き受けている。その一人一人に合わせて安全を確保しなければならないので、多数の教職員が統一的な対応をしなければならない。

地震（天災）である東日本大震災時の2つの裁判例が紹介された。1つ目は、危機管理マニュアルに津波浸水時の避難場所を定めることや避難経路及び避難方法を記載するなど回避措置を尽くさなかった事例。2つ目は、津波警報が発令されているかどうかなど防災行政無線の放送内容に耳を傾け正確に把握すべき情報収集義務を怠った事例である。修学旅行においても「危険を予見する」「危険を回避する」ことが大切である。

(3) 「修学旅行における災害危機管理」セコム株式会社 I S 研究所三島和子主任研究員 2013年3月27日上野文化会館

修学旅行のリスクを対策する7つの選択肢に当てはめ考察している。①リスク回避：リスクにさらされないように活動をやめること、②リスク源の除去：リスクを生じさせる潜在的要素を除去すること、③起こりやすさを変える：事象や結果の起こりやすさを変えること、④結果を変える：好ましくない結果が小さくなるようにまたは拡大しないように対応する、⑤リスクテイク：好ましい結果、好機を求めてリスクを取ることを、⑥リスク共有：他者との間でリスクを分散すること、保険などリスク転移を含む、⑦リスク保有：あるリスクによる損失や利得を受容すること。

リスク解決のためには、「Ⅰ土地勘をつける→災害リスクを知る」、「Ⅱ行動指針を決め備える」、「Ⅲ協力をあおぐ→連携を強化する」、「Ⅳ補償をつける→保険の手配」4つのアプローチが有効であり、事前準備が8割、緊急時対応が2割としている。

8 1年宿泊学習、2年立志スキー学習のアンケートより

1年宿泊学習、2年立志スキー学習後にアンケートをとり修学旅行への興味をもたせ指導との関連を図った。

(1) 1年宿泊学習（赤城山登山と野外炊飯）平成29年9月実施 （太字多数意見）

① 自助に関すること：「自分を大切にし、安全にできたことは？」

（赤城山登山）

- ・滑らないように気をつけて歩いた
- ・声をかけ段差などを教え合った
- ・登山全般に気をつけた
- ・より安全な道を歩いた

（野外炊飯）

- ・野外炊飯で火をつかう場面は気をつけた
- ・やけどをしない服装と活動をした
- ・食器類をよく洗った
- ・野外炊飯で包丁の使い方に気をつけた

（全般）

- ・無理をしないで安全に努めた
- ・ケガをしないようにした
- ・しっかり睡眠をとった
- ・危険な行動をせずみんなと行動した
- ・バランスよく食事をした



（法隆寺）

② 小学校時代との比較：「小学校の修学旅行よりがんばれたことは？」

（中学校生活で行っていること）

- ・あいさつがしっかりできた
- ・5分前行動
- ・けじめある行動
- ・「自ら動く」を意識して動いた
- ・時間やきまりを守れた

（友人関係、その他）

- ・マナーを大切にした
- ・友情が深まった
- ・回りの人を考える
- ・室長としてまとめることができた
- ・明るく元気に盛り上がった

（宿泊学習、活動の高まり）

- ・みんなと協力できた
- ・野外炊飯で友人と協力できた
- ・グループ行動、集団行動
- ・係活動
- ・山登りは弱音をはかず最後まで歩けた
- ・登山で声を掛け合った
- ・色々なことが積極的にできた



（大仏殿）

③ 中学校修学旅行のこと：「3年修学旅行に期待すること、行ってみたい所は？」

（期待すること）

- ・楽しく行けるようにする
- ・伝統的な食べ物を食べたい
- ・友達との関係をより深める
- ・どんな寺院があり歴史があるか
- ・景色や風景、歴史ある建物
- ・あいさつやマナーを高めていく

（行ってみたい所）

- ・東大寺大仏殿
- ・金閣寺
- ・銀閣寺
- ・よくわからない
- ・奈良の寺院
- ・京都の街並み
- ・平安京
- ・生八ッ橋について調べ試食したい
- ・香の専門店

(2) 2年立志スキー学習 平成31年2月実施 (太字多数意見)

①自助共助に関すること：「立志スキーで自助共助をどのような場面で発揮できましたか？」

(スキー学習)

- ・ 転んだ時、助けたり助けてもらった
- ・ 止まることを教えたり、教えてもらった
- ・ インストラクターの話をよく聞いて安全にできるようにした
- ・ スキー班員で協力できた

(生活)

- ・ 班員で協力できた
- ・ 部屋で時間を確認し教え合った
- ・ しおりをみて、分からないことを協力し合った
- ・ 自分のことは自分でやる
- ・ 班の活動がうまく行くように声をかけた
- ・ 避難経路を確認した

(健康)

- ・ 食事のバランスを考え健康を維持した
- ・ うがいや手洗い、マスク着用を行った
- ・ 病気にならないように気をつけた



(奈良公園)

②修学旅行のこと：「3年修学旅行に期待すること、行ってみたい所は？」

(期待すること)

- ・ 寺社に行きたい
- ・ 班行動で協力する
- ・ 思い出に残る行事にしたい
- ・ おいしい食べ物
- ・ 抹茶のデザート
- ・ 舞妓さんに会いたい

(行ってみたい所)

- ・ 東大寺大仏殿
- ・ 金閣寺
- ・ 清水寺
- ・ 銀閣寺
- ・ 平等院鳳凰堂
- ・ 東寺
- ・ 法隆寺
- ・ 鉄道博物館

③情報のこと：「3年修学旅行で行ってみたい所の情報をどのように集めるか？」

(情報環境)

- ・ インターネット検索
- ・ 旅行情報誌
- ・ 本
- ・ パンフレット
- ・ テレビ

(経験や体験)

- ・ 実際に行った人の話
- ・ 家族
- ・ 口コミ
- ・ 京都の知識(検定)をもっている職員

(3) 2つのアンケートより

- ・ ミッションである「自助共助」は多くの生徒が意識し様々な場面で実行している。
- ・ 小学校の修学旅行と比べてあいさつや節度ある行動、時間やきまりを守り協力することができ中学校生活が身についてきた。
- ・ 2年立志スキー学習は、1年宿泊学習と比べて、主体的な行動が多く見られた。
- ・ 行ってみたい所は、東大寺大仏殿、金閣寺、銀閣寺、清水寺が多く1, 2年生時の差は少ない。

- ・3年修学旅行の情報収集は、インターネットや情報誌利用が多いので、情報環境を整えることにした。
- ・経験や体験などによる生徒に分かりやすい生の情報を準備した。
- ・前学年の修学旅行まとめ作品を掲示し、閲覧や交流を図り生の情報を与えることとした。
- ・京都検定をもっている職員の協力を得て、情報提供や個別相談を行うこととした。

9 3年修学旅行について

(1) 目的

- ①世界遺産に登録されている日本の古都を訪ね、歴史的遺産や伝統文化を自分の目で確かめ、先人の業績を偲び、文化財愛護の精神を養う。
- ②集団行動と生活体験を通して、公衆道徳や社会の一員としての自覚と責任ある態度を身に付ける。
- ③実行委員会や班別活動等の自主的自律的な活動を通して、コミュニケーション能力を育成する。
- ④生徒と教師及び生徒相互の人間関係を深め、楽しく一生忘れ得ぬ思い出づくりをする。

(2) 心得

- ①学校行事の一環であることを忘れず、けじめある生活をしよう。
- ②時間、ルールやマナーを守って、周囲の人たちに迷惑をかけないようにしよう。
- ③時と場に応じたあいさつと返事をしよう。
- ④思いやりや助け合いの気持ちを忘れずに、友情を深めよう。
- ⑤常に身の周りの安全に注意しながら生活する。「自助・共助」を実践しよう。
- ⑥働く方々との交流を通して、自己理解や職業理解に役立てよう。

(3) 日程

【令和元年6月26日】

集合 ----- 野木駅 ===== 東京駅 ===== 京都駅 -----
 5:15 5:52 JR宇都宮線 7:07 7:47 東海道新幹線 10:05 昼食

— 法隆寺 ——— 薬師寺 ——— 奈良公園 ----- 東大寺 ---- 旅館 ----- 奈良公園
 11:30 13:10 13:50 15:00 15:40 17:10 17:30 18:40 燈花体験



(法隆寺)



(薬師寺)



(大仏殿)

【6月27日】

旅館 ----- 班別研修 ----- 旅館
 8:15 16:30



(運転手さんと)



(伏見稲荷)



(金閣寺)



(昼食)



(京都御所)



(さざれ石)

【6月28日】

旅館	——	北野天満宮	—————	清水寺	—————	京都駅
8:10		8:50	9:40	10:10	昼食	12:40 13:30

京都駅	—————	東京駅	—————	学校
14:02		16:20 16:50		19:00



(北野天満宮)



(清水寺)



(湯豆腐懐石)

(4) 奈良泊より

① 旅館の位置

東大寺から歩いて行ける旅館に宿泊したので大仏殿等の見学時間を多めに確保することができた。ゆとりがあり周辺を散策するグループや鹿とたわむれる者、買い物をする者など満喫していた。今後、東大寺南大門の駐車場や他の駐車場利用などに注目したい。

②燈花体験

毎年8月に、奈良市内の10会場で2万本以上のロウソクが灯され美しいイルミネーションが見られるイベントが模様されている。このイベントを支えている方々を指導者として迎え修学旅行生の「燈花体験」を行った。事前にクラスごとにロウソクを並べるデザインを決め事務局と連絡を取り合った。

旅館から10分ほど歩いた奈良公園の芝生広場に集合し、指導者に出会い全体の説明を受けクラスごとの活動となった。始めは、要領を得なかったがクラスごとに協力し合いカップを並べていった。指導者の指示や生徒たちが工夫して決められたデザインに並べ切った。

その後、カップに水とロウソクを入れ点火していった。公園全体が夕闇に包まれロウソクのきらめきが幻想的になり美しさに生徒たちも満足な様子であった。



③タクシーと見学地の広範囲化

本校は、2日目の班別研修にタクシーを利用している。初日と2日目の宿泊先が異なると大きな荷物の扱いが課題となるが今回は、旅館近くまでタクシーが入り荷物を積み込むことができた。

生徒の希望見学地は、京都市内が多い傾向にあるが、奈良から京都に向かう途中の寺社など広範囲に選択できることを事前指導でも伝えた。今回は、春日大社や平等院鳳凰堂などを選ぶ班もあった。



(5) キャリア教育の取組

3年主任として学年経営の柱としてキャリア教育を位置付けている。特に、学級活動におけるキャリア教育の時間や3年間を見越した職場体験学習、学年だよりを活用した啓発、進路指導主事との協力を特徴としている。

①基礎的・汎用的能力

社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる「基礎的・汎用的能力」を育成するには、保護者の理解と協力が必要なので行事ごとの諸能力を考え人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力を学年だよりを活用して啓発した。

②1年宿泊学習の場合

- ・人間関係形成・社会形成能力：様々な活動を通してリーダーシップやチームワークなどを身に付ける
- ・自己理解・自己管理能力：日常とは違う場所で、自分の力を生かして活動する能力を鍛える
- ・課題対応能力：試行錯誤しながらの活動により、目の前の活動に工夫して取り組む力をつける
- ・キャリアプランニング能力：事前事後の活動をスキー学習や修学旅行に生かしつなげる

③ 2年立志スキー学習の場合

- ・人間関係形成・社会形成能力：家族の一員としての自覚や、様々な活動を通してリーダーシップやチームワークなどを身に付ける
- ・自己理解・自己管理能力：立志式を通して自己を見つめ、日常とは違う場所で、自分の力を生かして活動する能力を鍛える
- ・課題対応能力：スキー学習に適応し、様々な活動を工夫して取り組む力をつける
- ・キャリアプランニング能力：これまでの歩みを振り返り、自分の将来を真剣に考える機会とする

④ 3年修学旅行の場合

- ・人間関係形成・社会形成能力：公共交通機関を利用したり観光地を訪問したりすることで、社会の一員としての自覚と責任ある態度を身に付ける
- ・自己理解・自己管理能力：自分の役割を理解し、目的をもって計画的に班活動することで、自分の力を集団活動の中で生かしていく能力を鍛える
- ・課題対応能力：テーマや課題をもって試行錯誤しながら活動することで、様々な課題に対して計画して取り組み実行力を身に付ける
- ・キャリアプランニング能力：普段は見かける機会がない働く人々に接することで、様々な働く価値や選択肢があることを捉え自分の将来を考える力を身に付ける

本校キャリア教育の課題に対して、修学旅行における「基礎的・汎用的能力」を上記のように明確にし、2日目の班別研修に職業体験活動を取り入れ諸能力を育成したいと考えた。

(6) 事前指導

①平成31年2月上旬から3月上旬まで、同階にある学習室に前3年生の修学旅行記を展示した。昼休みに自由に閲覧したり修学旅行の事前指導としてクラスごとに活用した。先輩方から生の情報を得て班ごとに研修する場所や昼食場所の希望、3日間の大まかな流れが把握できた。

②情報収集は、インターネット検索が多く最新のもの、正確なもの収集に努めさせた。PC室や教室でのモバイルノート活用を図り多くの生徒の学習に対応した。

③京都検定をもっている職員の協力を得て情報提供を行ってもらった。美術室前の廊下や掲示板に京都や奈良の資料を掲示し休み時間や事前指導時に活用した。学校開放で来校した保護者も見学して参考にしていた。



④京都検定をもっている職員と班別研修の見学地や体験学習、昼食などを相談した。この職員が3年になり2組の担任になったので、学級や学年全体の関りが深まり最終決定に向けて多くの助言があった。

⑤京都と奈良の下見をもとに、事前指導として防災研修「いざという時の防災講座」を行った。特に、宿泊先の避難経路や最新の情報、避難場所や避難所などを伝えた。また、2日目の班別研修時の緊急対応についても指導した。



⑥緊急時の手引き：「修学旅行自助共助カード」を作成した。これは、しおりを基に時間と場所、行動や緊急対応を簡単にまとめたものである。情報として令和元年6月より用いられた5つの避難情報、南海トラフの臨時情報、地震への対応などをのせた。

台風3号の発生情報にも冷静に対応でき、警戒レベル2などの意味理解につながった。



(修学旅行自助共助カード)

(7) 体験活動

全班(12班)が2日目の班別研修時に、職業体験活動を行った。体験活動のできる場所を探し場所や費用、時間を調整しながら生徒達の興味あるものを選択させた。

①山城屋(七味づくり) 3班

②舞扇堂(扇子づくり) 4班



③甘春堂（和菓子づくり）1班



④井筒（ハッ橋づくり）3班



⑤和楽（組みひもづくり）1班



(8) インタビュー、アンケートより

①山城屋（七味づくり）3班

Q 仕事で心がけていることは何か？

A 七味の作り方を分かりやすく説明する。

A おいしい七味になるように工夫している。

A 1つ1つの味に古い歴史があり発展したことを伝えている。

A 外国の方が多くなり英語でのコミュニケーションを心がけている。

Q 七味に合う食べ物は何か？

A 伝統的な物もあるがお客様の好きな物でよい。

②舞扇堂（扇子づくり）4班

Q 仕事をやっていてうれしいことは何か？

A お客様が笑顔で帰るとき。

Q 仕事についての理由は？

A 日本の伝統の物を扱い外国の方にも伝えたい。

Q 仕事で大切にしていることは何か？

A お客様をおもてなしの心で迎えている。

A お客様へ声をかけ、商品を丁寧に説明する。

③甘春堂（和菓子づくり）1班

Q 仕事でうれしいことは何か？

A お客様が和菓子を見て食べて喜んでくれること。

A お客様がおいしいとほめてくださること。

Q 仕事で心がけていることは何か？

A 相手をきちんと見て誠実に話すこと。外国の方には英語で話しかけてみる。

A 古都に誇りをもち、和菓子から日本を知ってもらうこと。

④井筒（ハッ橋づくり） 3 班

Q ハッ橋は、いつ頃からあったか？

A 焼いたものは、江戸時代。生は、比較的新しい。

Q 体験活動でどのようなことを学んで欲しいか？

A 京都の伝統的なお菓子であること。現在は、同じ品質になるように機械で焼いている。手焼きは、一枚一枚風味が違う。

Q 仕事を通して考えていることは何か？

A 伝統あるハッ橋づくりを継承していることに誇りを感じている。

⑤和楽（組みひもづくり） 1 班

Q 組みひもづくりを始めたきっかけは何か？

A 大学時代に組みひもに出会い興味をもった。

Q 仕事を通して考えていることは何か？

A 伝統を引き継ぐことに誇りをもっている。

A 一人一人に合わせて教えている。

A 完成した時のお客さんの笑顔に喜びを感じる。

⑥アンケート「修学旅行の体験学習で『職業や働くこと』についてどのようなことを感じましたか？」（太字多数意見）

（イメージ、感想）

- ・とても難しい
- ・とても忙しそうだ
- ・とても大変だ
- ・楽しそうだ
- ・覚えることが大切ということが分かった
- ・物のよさをもっと知って欲しい
- ・簡単に見えることもやってみると難しかった
- ・作業スピードが速く凄さを感じた
- ・思っていたより難しかった
- ・働くことはとても大変だと実感した
- ・楽しかったけれど大変だと思った
- ・様々な国の人に対応していた。
- ・将来 AI に仕事をさせるのはもったいない

（伝統文化）

- ・その仕事を昔から受け継いでいることが分かった
- ・日本の伝統的な職業がたくさんあり、とても素晴らしいものだと感心した
- ・京都に昔からある店は、伝統を守り次の代に引き継いでいる
- ・京都の伝統や細かい気遣いを感じた
- ・礼儀や丁寧さが必要と思った
- ・働く人の商品にかける思いを学んだ
- ・手際がよく職人はすごいと思った

- ・ もっと日本を知ってもらいたい

(働く意義)

- ・ **好きなことを楽しくやる**
- ・ お客さんに楽しんで欲しい
- ・ 責任をもって働く
- ・ 働くことは素晴らしい
- ・ 本気でその仕事を行っていると思った
- ・ 働いている人がいるから私たちは生活できる
- ・ 働くことは楽しいものだと感じた
- ・ 安全が最重要である
- ・ みんなへの感謝を忘れない
- ・ 働くとたくさんいいことがあると感じた
- ・ 商品が当たり前のようにあるのではなく作ってくれる人に感謝しなければならないと思った
- ・ つらいことの中に楽しさがあることを知ってやる気生まれる
- ・ 働くことの奥深さを感じた

(自分の職業)

- ・ **自分の好きなことを仕事にする**
- ・ **職業に誇りをもちたい**
- ・ **自分の仕事にやりがいもちたい**
- ・ 身近でない職業を体験し職種がたくさんあると思った
- ・ 様々な仕事の形があると思う
- ・ 職業は自分が就きたいものをとことん真面目に努力することで叶えられると感じた
- ・ 今まで知らない職業を知り、自分の就きたい職業の幅を広げることができた
- ・ 八つ橋職人の方々が自分の仕事に誇りをもっている姿をみて素晴らしいと思った
- ・ 働くことは物を売ることだけでない

(9) 京都エコ修学旅行への参加

京都市が行っている「環境にやさしい京都エコ修学旅行」に参加した。修学旅行中に実践する3つの取組①歯ブラシ持参使用、②京都市オリジナルエコバックで買い物、③食事の食べきり、食べ残しゼロロスを実践した。歯ブラシ持参使用は、宿泊学習でも行っておりごみの削減意識が高まった。食品ロスは、日頃の給食でも実践していることなので無理なく無駄なく行えた。布製のエコバックの使用で、レジ袋等の削減に貢献できた。また、雨が強くなり紙袋が濡れて破けそうになったが布製のバックが役立った。



(エコバック)

10 成果と課題

(1) 成果

①生徒の主体性を伸ばし、校長のビジョンや学年主任の経営方針にそった3年間の集大成としての行事が実施できた。

②京都や奈良の下見を通して避難所等を確認し、各種機関の情報を入手し防災意識を高める事前研修ができた。

③安全な修学旅行のために危機予見と回避の方策を検討し、個人で役立てることができ「修学旅行自助共助カード」を準備することができ、直面した台風に対応できた。

④生徒の情報収集状況がわかり、インターネット環境整備や校内の人材活用、情報源の確保や工夫に努めた。

⑤奈良泊により燈花体験が実施でき、デザイン決めや協同作業、写真撮影など充実した一連の活動ができた。

⑥キャリア教育と学校行事の関係、キャリア教育のねらいや諸能力を明確にできた。2年時の職場体験では行えなかった職種にふれ将来の展望や職業価値観が深まった。

⑦「京都エコ修学旅行」の取組に主体的に参加でき、1，2年生の宿泊学習で行ってきたことや日頃の給食で行っていることの意味、エコロジーを確認できた。

⑧関東地区公立中学校修学旅行委員会の役割や手続きが校内でも明確になった。

(2) 課題

①職業観を高める適切な体験活動を選択し調整することが難しかった。また、費用負担の均等化や低減も必要である。

②公共交通機関や駅の利用時、観光地における公共マナーや歩き方の指導を徹底する必要がある。

③一人一人が安全な行動ができるように、生徒、教職員の意識化と共有化を図る。必要な防災情報や防災マップを有効活用できるような資料と指導場面を工夫する。

④修学旅行中に台風が発生したこともあり、様々なことを想定した計画や指導の必要性を痛感した。今後危機管理マニュアルの幅広い見直しが必要である。また、保護者の安心感を高めるメール配信の在り方を検討したい。

⑤修学旅行のねらい達成のためには、事後指導や振り返りが大切なので、時間を調整しよりよいまとめをする。また、次の学年に生の情報を伝える場を設定したい。

⑥修学旅行や宿泊学習で加入している保険内容を検討し、リスク共有が図られるようなものを選択する。